

「小中交流宿泊体験学習」

～考えを伝えあう人間関係づくり～

1 趣旨

小中交流宿泊体験におけるグループワーク等の体験活動や生活を通して、児童・生徒のコミュニケーション能力を育成し、中一ギャップの解消に貢献する。そのため、校区ごと募集し、教育委員会や現場の小中学校教員との連携を深め、青少年教育施設としての新たな面を探る。

2 ねらい

- ・児童・生徒が自分の意見をもってその意見を言う、相手の意見を聞く機会を多く体験させる。
- ・教育委員会や学校と打ち合わせの場をなるべく多く設け、円滑な運営につなげる。

3 日程

- (1) 期 日 平成25年11月12日(火)～13日(水)【1泊2日】
(2) 参加者 A・B中学1年生とその校区の小学6年生 195名 教員18名
(3) 研修内容

1 日目

- 14:00～14:20 入所式(講堂)
14:30～15:15 研修1:アイスブレイク(各研修室)
15:30～16:45 研修2:エクササイズ「新聞紙タワー」(体育館)
17:00～17:15 イブニングタイム(体育館)

2 日目

- 7:00～7:15 フレッシュタイム(体育館)
9:00～10:30 研修3:ミニ運動会(体育館)
10:50～11:40 研修4:メッセージを贈ろう(体育館)
11:50～13:20 アンケート記入・昼食
13:30～13:45 退所式(講堂)

○ エクササイズについて

研修に取り入れたエクササイズは、ラボラトリー方式の教材の中からチームづくりや目標をもってチームにかかわる体験ができる「新聞紙タワー」を取り入れた。初めて会った人とコミュニケーションをとる時には、「自分の考えを持ち、相手に伝える」という力が必要不可欠である。コミュニケーションをとる中で、中学生は小学生をリードすること、小学生はチームのために行動することをめざす。

4 成果と課題

(1) 参加者の満足度結果から

- ・ 事業後の参加者対象のアンケートにおいて、全体を通しての満足度として「満足」・「やや満足」と回答した参加者は97%であり、高い数値となった。自由記述では、ほとんどの生徒が「他校の人たちと仲良く活動することができた。」と記していた。
- ・ エクササイズごとの満足度は、アイスブレイク95%、新聞紙タワー94%、ミニ運動会が97%であった。どの活動も高い満足度を得ていた。
- ・ 小学生は中学生と、中学生は小学生と仲よくなれたかという質問では、小学生84%、中学生75%が「仲よくなれた」と感じていた。活動全体を通して協力することができたかという質問では、全体の99%が「協力することができた。」と感じていた。

(2) 児童・生徒の感想

[小学生]

- ・ 合宿が初めてだから不安もたくさんあったけど、同じ班のみんなが優しくしてくれて不安がなくなりました。生活でもみんなと協力してできたので、とてもよかったです。来年は、中学生としてみんなをリードしていきたいと思いました。

[中学生]

- ・ 最初は重い空気でしたが、この行事でニックネームをつけたりいろいろ話をしたりして、とてもよかったです。また、自由時間のときも2つの地区がいっしょになって遊んでいるところも見られたのでとてもよかったですと思いました。どれもが思い出になりました。私は、アイスブレイクが、とても思い出に残りました。1つ1つのゲームがとても楽しく、みんなとより仲良くなれました。うれしかったです。

(3) 成果と課題

- ・ 活動の中で、小学生も中学生も「進んでかかわる」「自分の考えを伝える」という姿がよく見られた。特に中学生の中には、みんなの意見をまとめるなど、リーダーとしての行動が見られた。また、参加児童・生徒から高い満足度が得られ、小中交流の目的は達成されたと考えられる。
- ・ 「仲良くなれた」と感じた児童・生徒が、エクササイズの満足度と比べて低かったことについては、研修の内容と数・順序を検討し、交流する場を設定する必要があると思われる。



【アイスブレイク】



【新聞紙タワー】



【ミニ運動会】